

フォーラム神保町

『田原総一郎ノンフィクション賞』

受賞作品上映会&講評会開催のご案内

主催/フォーラム神保町
会場/角川文化財団ホール(千代田区富士見町1-12-15角川書店第1本社ビル2F)
JR飯田橋西口より徒歩5分/地下鉄飯田橋B2a出口より徒歩6分

□ **8月21日(土)** 13:00~14:00 **佳作『にくのひと』** (55分) 上映
14:00~16:00 講評会
受賞者/満若勇咲(監督)
選考委員/田原総一郎(ジャーナリスト)
坂本衛(ジャーナリスト)
中沢けい(作家)

□ **8月22日(日)** 13:00~15:00 **奨励賞『花と兵隊』** (106分) 上映
15:00~17:00 講評会
受賞者/松林要樹(監督)
安岡卓治(プロデューサー)
選考委員/魚住昭(ジャーナリスト)
宮崎学(作家)

コーディネーター/二木啓孝

■入場料 学生/無料 一般/¥1,500

■お申し込み → 「フォーラム神保町」ホームページ (<http://www.forum-j.com/>) からお申し込み下さい。

佳作『にくのひと』

選考委員の意見は大きく二つに割れた。食肉加工と被差別部落の問題という、既存のメディアでは触れることも撮ることもできないタブーとされている映像を撮った点を高く評価するという意見。一方、制作者の満若氏がこうした問題に踏み込めたのは、その素直さ、そのストレートさゆえとも言え、本質的なタブーはこの映像からは見えてこないという異論も。制作者は、食物の調理プロセスのひとつとして見せるつもりでこの作品を撮ったようにも思える。血に染まる牛の解体現場を、見学に来た女子中学生が見ようとしないうち、その生徒に見るように促す教師の及び腰も、象徴的だ。『ザ・コーヴ』が話題の昨今だが、もっと足下から、人が生きていくことはどういうことかを考えさせられる作品である。

奨励賞『花と兵隊』

太平洋戦争終結後も、出征先に残った旧日本軍兵士の戦後取材したドキュメンタリー。単に、旧軍兵士の“その後”を描いているだけではなく、老いゆき、やがて死を迎える者と、生まれてくる新しい生。綿々と続く命が静かに淡々と描かれている。制作者の松林氏がこの作品を撮影したときは20代後半。その若さでこのような視点から人間が生きてゆく姿を捉えることができるという点は、非常に高く評価できた。映像が美しく、若い世代の美意識やセンスの高まりを感じさせる作品でもある。

(以上、講評より)

当日は12:00より受付を開始致します。

参加希望者はお申し込みが必要です。

☞ 「フォーラム神保町」のホームページよりお申し込み下さい。
<http://www.forum-j.com/>

お問い合わせは フォーラム神保町 info@forum-j.com まで。

「フォーラム神保町」とは

2006年に立ち上げられたメディア勉強会のためのトポス(空間)。

現役のメディア関係者(新聞記者、ライター、編集者、ジャーナリスト、テレビ番組制作に関わる者ら)を集め、

シンポジウムや勉強会を企画・開催している。

主な運営メンバーは、魚住昭、宮崎学、佐藤優、田原総一郎など。

また『田原総一郎ノンフィクション賞』設立、

ウェブマガジン『魚の目』(魚住昭責任総編集)刊行など、

そのネットワークを広げている。

